

【日 時】 令和6年3月1日（金）午前10時～午後12時15分
 【場 所】 多治見市役所駅北庁舎4階第1・第2会議室
 【参加者】 最終頁名簿のとおり
 【内 容】

1 教育長あいさつ

2 多治見市教育行政報告

(1) 体力・学力を高める教育・保育の推進

(委員)	食物アレルギーの対応については、どのように行っているか？
→ (事務局)	令和3年6月竣工された食育センターは、アレルギー除去食を調理する専用の区画がある。アレルギー除去食は、この区画で調理され、学校、学年、名前の記入がある専用の食器に盛り付ける。食育センターから運ぶ時、学校で受け取る時、対象者に配膳する時それぞれ、ダブルチェックを実施し、確実に対象者に渡るようにしている。これまでは、アレルギー除去食を調理できない調理場もあり、他の調理場から運ぶこともあったが、令和6年度からは、市内全部の調理場で対応が可能となる。
(委員長)	アレルギー対応食の対象者の給食費は、他の児童生徒と同額であるか？
→ (事務局)	同額である。
(委員)	体力アップを図るために、多く予算をつけて実施していることを有難く思う。 夏休みに30名の小学校、幼稚園、保育園の先生が参加した「運動遊び」に関わる研修は、どのようなことを行ったか？ また、国語が嫌いという中学生が多いが、成績は良いのはなぜか？ 感想になるが、東海三県で多治見市と土岐市のみである「学校情報化先進地域」の認定を受けたことは素晴らしい。教育委員会、各学校がICTを推進するための努力の成果であると思う。
→ (事務局)	研修会では、子ども達が興味、関心をもって運動することができるようにするためにはどのようにしたらよいか、例えば、少しずつレベルアップしていく方法や鬼ごっこでも、捕まったら手をあげたり、枠の中に入ったりという少しの工夫で楽しく運動できるようにする方法などを学ぶことができた。 学習については、国語は好きではないが成績は国の基準より高いという結果が以前から中学生に顕著である。楽しい授業を行うことで好きになり、勉強したいと感じ、結果的に学力につながると教員の研修会などでは話している。令和3年度の多治見市学習意識調査によると国語の嫌いな理由は、分かりにくい、成果が感じにくいという回答が多い。そのため、できるようになったことを実感できるような授業改善の必要性を伝えている。
(委員)	「運動遊び」に関わる研修会に参加した先生は各学校、園で還元しているか？
→ (事務局)	他の先生に還元するように伝えている。
(委員長)	既に令和9年度の成果目標を達成している項目もあるため、次の目標を設定することを考えるとよい。

(2) 社会性と豊かな心を育む教育の推進

(委員)	「子どもの権利セミナー」は教職員 21 名参加、「人権同和教育講演会」は教職員 105 名の参加となっているが、この差の原因は何か？ 弁護士による「いじめ防止・自立と共生授業」の授業後のいじめのアンケートで、「いじめをなくすために自分がすべきことの理解」の数字が 100%ではないが、対策等はあるか？
→ (事務局)	「子どもの権利セミナー」は各校 1 名参加、「人権同和教育講演会」は各校 1/3 程度の参加を依頼している。 いじめのアンケート結果で 100%ではないことは課題として認識している。100%に近づくよう、弁護士組合にはアンケート結果を情報提供し、数字を伸ばせるように授業内容の見直しを図っていく。
→ (委員)	「子どもの権利セミナー」について、各校 1 名の参加ではなく、1 名でも多くの教職員に参加してもらいたい。
→ (委員)	「いじめをなくすために自分がすべきことの理解」とは、子ども達は具体的に何を理解したのか。
→ (事務局)	「見て見ぬふりをせず助けたい。」という意見が多い。他にも「いじめている子に対して声をかけたい。」という意見がある。
(委員)	この教育行政報告をみると、体験する機会が増え、横断的な取組が進んでいると見受けられる。知識の下にある知恵が育まれていると感じる。
(委員)	地域の一人として、企業人として子どもと繋がる機会が増えていることに感謝している。窯業に関わったり、農業に関わったりしながら、地域への愛着が進んでいると感じる。 多治見市の過去の人物にスポットを当てて、時代背景と共に学ぶと地域への愛着がさらに深まると思う。 キャリア教育の予算が増額となっているが何に使われているか？
→ (事務局)	令和 5 年度は補正予算で増額したため、令和 6 年度と同等な予算額になっている。内容としては、本市が実施したビジネスコンテストで優勝した会社の事業であるオンラインのキャリア教育の委託料である。

(3) 家庭、学校・園、地域の連携の推進

(委員)	青少年まちづくり市民会議の行事では、参加者よりボランティアが多い。行事の意味や地域の発展にどのように繋がるかを PR していくことが参加者を増やすためには重要である。 中学校体育大会は、教員の引率が伴うことが理由であると思うが、振替休日を設定している。文化部に所属している生徒や授業時間の確保のことを考えると、実施するのであればしっかりと実施した方が良いと思う。 部活動地域移行検討会議では、どのような内容を検討したか？
→ (事務局)	令和 6 年度は、市内大会はなくなり、東濃大会からとなるため、大会に伴う振替休日はなくなる。中体連の大会やこれに繋がる練習試合の引率については、教員に手当が支払われている。

	令和5年度の部活動の地域移行検討会議での確認事項は2つある。1つ目は、子ども達のやりたいことができるような環境を整えていくことである。そのために、ジュニアクラブでは、指導者の確保や加入者の減少によるクラブの合同など、再整備をすることが必要であり、また、ジュニアクラブに限らず、設立要望のある各地域クラブの枠組みづくりも必要であると共通認識をもった。 2つ目は、市全体のスポーツ・文化活動の普及の必要性について確認し、現在、課題を整理しているところである。すでに多くのイベントは実施しているため、その周知方法が課題であると共通認識を図った。
(委員)	ママへの啓発活動に加えて、パパへの啓発活動にも力を入れると良いと思う。 青少年まちづくり市民会議の後継者不足が話題となるが、青年会議所やロータリー、ライオンズなどには地域のために活動を行いたい方も多いと思う。青少年まちづくり市民会議について知らない方も多いと思うのでPRをするとよい。世代交代も必要であると感じる。
(委員)	マイ幼稚園、マイ保育園とは何か？
→ (事務局)	子育てに関する不安などを相談することができる場所として保育園・幼稚園を「身近な子育て支援拠点…かかりつけ園」として登録してもらうことである。複数の幼稚園や保育園を登録することもできる。
(委員)	公立園だけではなく、私立園でも実施しているか？
→ (事務局)	公立園に限らず私立園でも実施している。

(4) 多様な課題に応じた支援の推進

(委員)	北陵中学校で、校内教育支援室に「リラックススペース」を設け、居場所づくりとしての機能をつくったことを聞き、不登校対策の事業の質が変わってきたと感じる。生徒の反応はどうか？
→ (事務局)	大勢の人がいる教室では苦痛を感じるが、個々のスペースでは安心して過ごすことができるという声が利用者からあがっている。
(委員)	この校内教育支援室があることで、何名ぐらいの生徒が学校に通いやすくなったか？
→ (事務局)	校内教育支援室の利用者数は、R4.12月とR5.12月を比較すると約30人増加している。
(委員)	特別支援教育に力を入れてもらい感謝している。また、学校休業日のたじっこクラブの開所時間が午前8時半から午前7時半に早くなり有難い。放課後デイサービスも午前7時半になると有難い。
(委員長)	「hyper-QU」の学級生活満足感が高いのは、子どもの権利を含む人権教育の実施等、施策1、施策2の事業が施策4に生きてきていると感じる。
(委員)	学校看護師が確保できたこと、キキョウスタッフが増員していること、キキョウフレンドに7名の登録があることは素晴らしい。また、さわらび学級は、学校復帰のみを目的にするのではなく、子どもの自立を促すことを目的にするなど、事業を見直しなが進めていることは評価できる。

(5) 学びを支える教育環境の充実

(委員)	教職員のストレスチェックで、40代の男性が「自覚的な身体的負担度」が悪い結果となっていることを受け、この年代が校務的な負担が大きいと分析し、課題として教育委員会が捉えていることは評価できる。
(委員)	成果目標で、月の超過勤務時間が80時間を超える教職員の数が急激に減少したことは素晴らしい。教員の働きがいということも重要であると説明があったように、働きがいがあるかどうかのアンケート結果もあると良い。教員の働きがいが良い教育につながる。
→ (事務局)	負担感というのは個々違うため、管理職がコミュニケーションをとれているか、仲間と助け合う関係であるか、大事なものは人間関係であるため、良い職場環境となるよう今後も努めていきたい。
(委員長)	教員にゆとりがあると子ども達にも安心を与え、相談しやすくなるため重要である。

3 意見交換

(委員)	評価委員会の資料が見やすく、評価がしやすくなった。今後お願いしたいのは、「目標、取組」となっている資料を「計画、実行」とするとよくなると思う。
(委員長)	第3次教育基本計画となり施策が充実し、2時間では評価するのが難しくなっていると感じる。

4 その他

事務局連絡

5 副教育長あいさつ

● 多治見市教育行政評価委員会 委員等名簿（敬称略）

委員

名前	所属・役職	その他
石井 拓児	名古屋大学教育学部教授	委員長
安田 悦子	元笠原小学校校長	副委員長
鈴木 耕二	会社役員	
中澤 香代	元教育委員	
三和 義幸	多治見西高校職員	